

3 我が国における廃棄物の現状

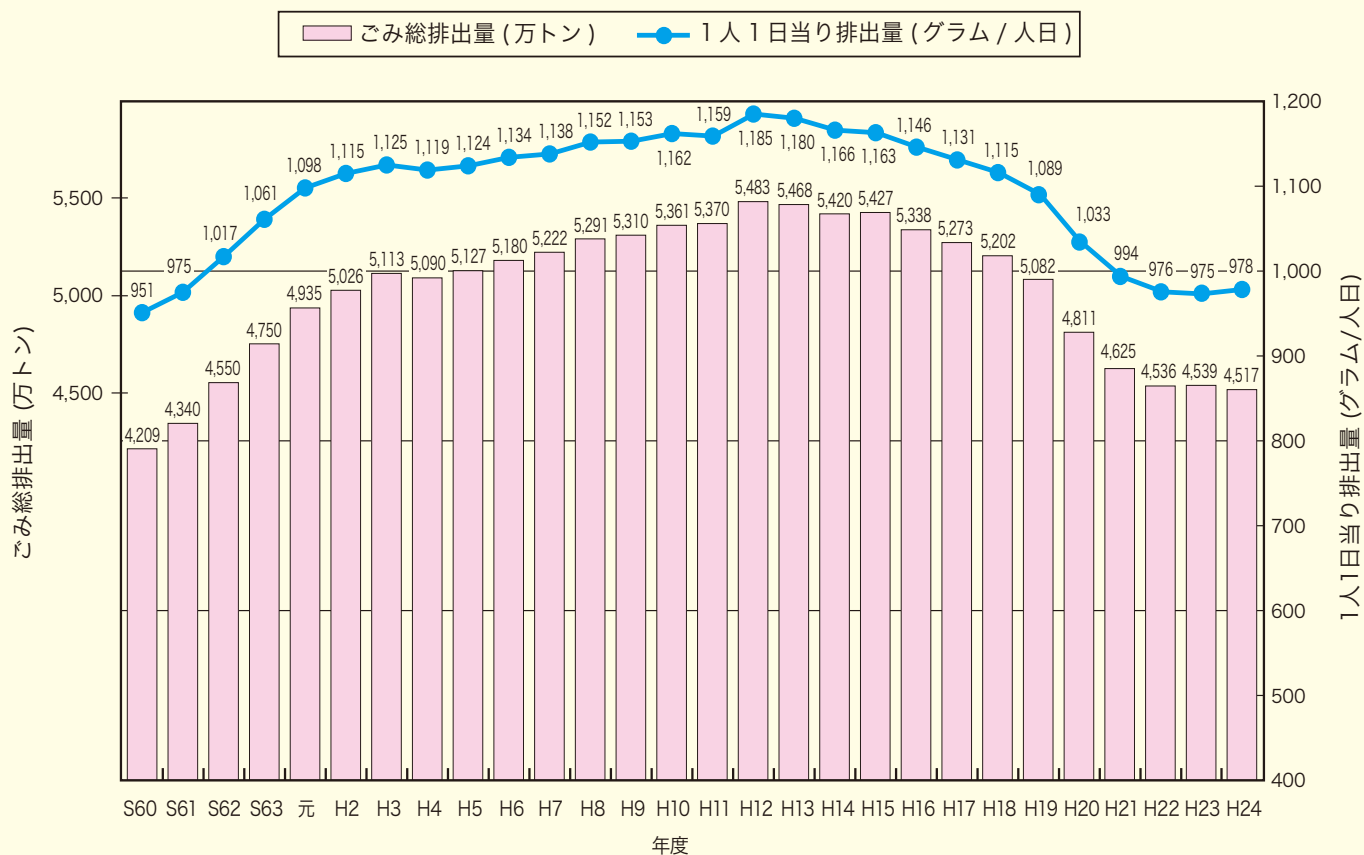
(1) 一般廃棄物

①ごみの総排出量

平成 24 年度のごみ（一般廃棄物：家庭等から排出される廃棄物のことで、通常、ごみといわれている）の総排出量は、約 4,517 万トンです。これは東京ドーム約 121 杯分（ごみの比重を 0.3 トン/㎡として算出）に相当します。また、1 人当たり 1 日に 978g 排出しています。（図 - 1 - 3）

ごみの総排出量および 1 人 1 日当たりの排出量は昭和 60 年度前後から急激に増加しましたが、平成元年度から緩やかな増加傾向となり、平成 12 年度をピークに継続的に減少してきています。1 人 1 日当たり排出量でみると、ピーク値の平成 12 年度から約 20% 減少していることになります。

図-1-3 ごみ排出量の推移



注) 「ごみ総排出量」 = 「収集ごみ量 + 直接搬入ごみ量 + 集団回収量」である。

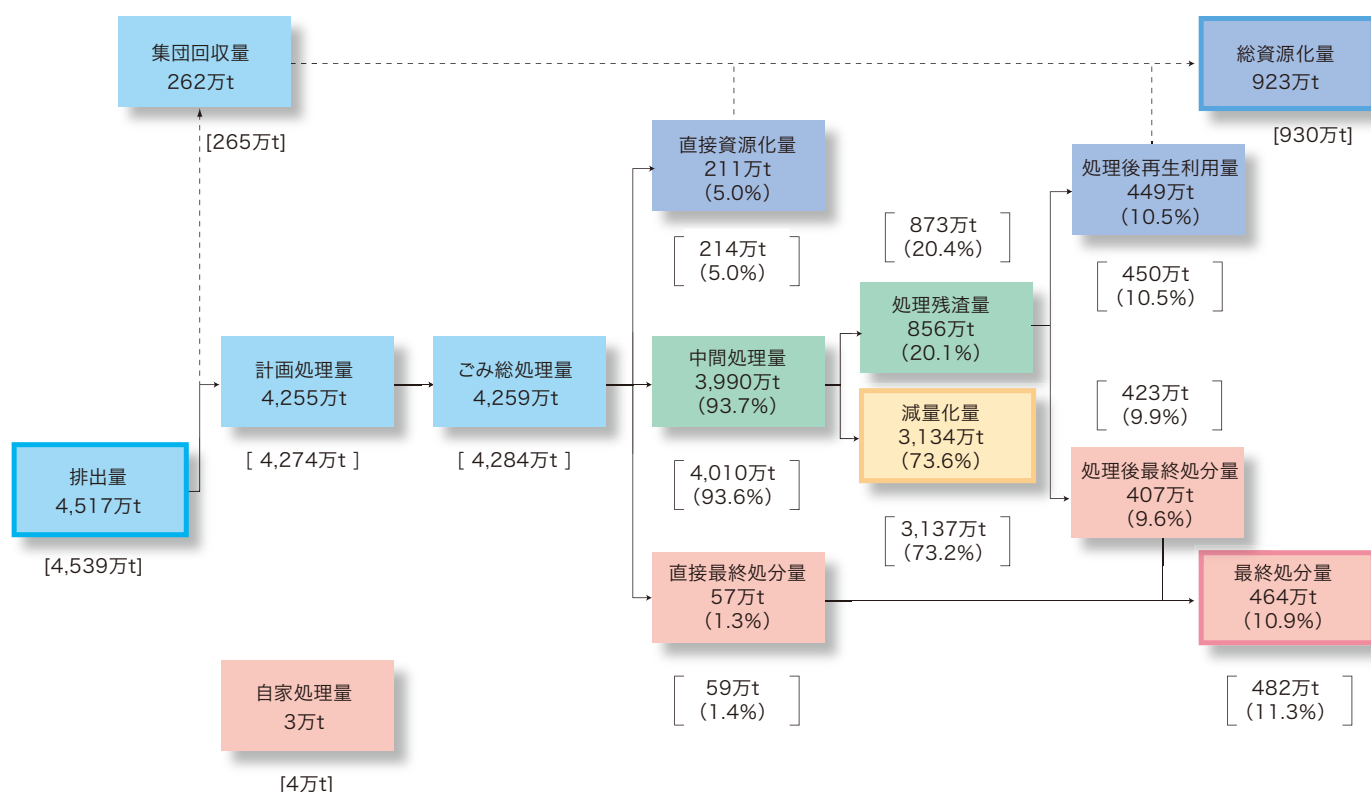
(出典：環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成 24 年度）について（平成 25 年 12 月 26 日）」に加筆)

②ごみ処理の状況

平成 24 年度におけるごみの総処理量のうち、市町村等で焼却、破碎、選別等により中間処理されるごみの量は 3,990 万トン、再生事業者等へ直接搬入されたごみの量は 211 万トンで、この両者でごみの総処理量全体の 98.6%を占めています。中間処理施設に搬入されるごみ 3,990 万トンは、

処理の結果、449 万トンが再生利用されています。これに直接資源化量と集団回収量を合計した総資源化量は 923 万トンとなっています。中間処理をされずに直接最終処分（直接埋立）されるごみは 57 万トンであり、中間処理により減量化される量は 3,134 万トンとなっています。（図 - 1 - 4）

図-1-4 全国のごみ処理のフロー（平成 24 年度実績）



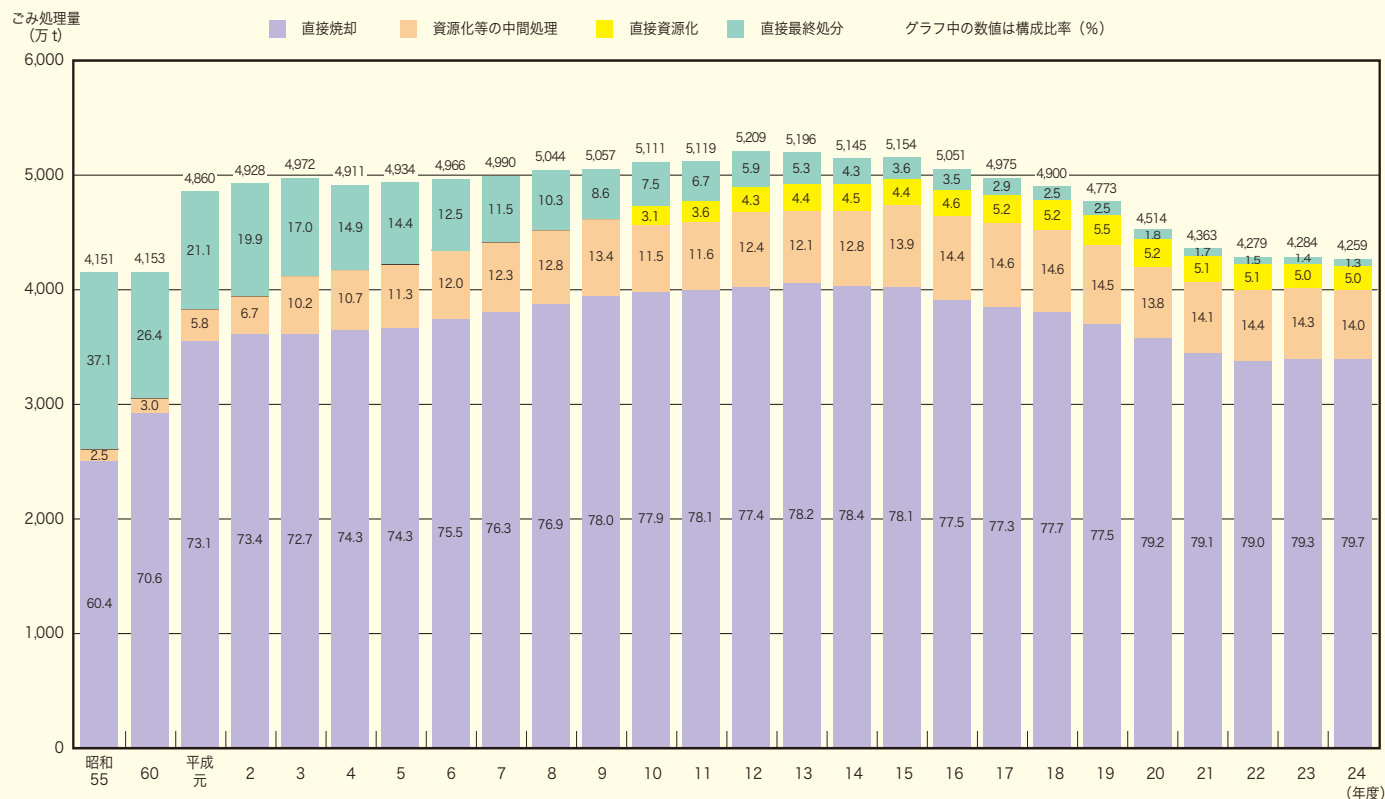
注 1：計量誤差等により、「計画処理量」と「ごみ総処理量」（＝中間処理量＋直接最終処分量＋直接資源化量）は一致しない。

[] 内は、平成 23 年度の数値を示す。

注 2：減量処理率(%)＝(中間処理量)÷(ごみ総処理量)×100

(出典：環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成 24 年度)について(平成 25 年 12 月 26 日)」)

図-1-5 ごみ処理方法の推移



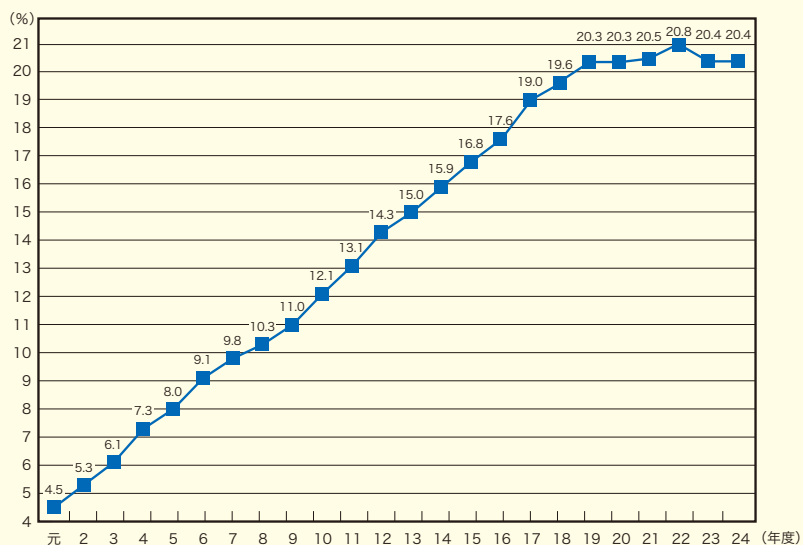
注)・直接資源化とは、平成10年度より新たに設けられた項目であり、資源化等を行う施設を経ずに直接、再生業者等に搬入されるものである。
・平成9年度までは、「直接資源化」は「資源化等の中間処理」で計上されていたと思われる。

(出典：環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成24年度)について(平成25年12月26日)」に加筆)

③リサイクルの現状

平成24年度の市町村等において分別収集され再資源化された直接資源化量は211万トン、中間処理により資源化されたごみの量は449万トン、住民団体等によって資源回収された集団回収量は262万トンであり、これらを合わせた総資源化量は923万トンです(図-1-4)。リサイクル率は20.4%となっており、平成元年度(4.5%)に比較して4倍以上となっています。(図-1-6)しかし、生ごみ等ごみの種類によっては、リサイクルがまだ進んでいないものがあります。

図-1-6 リサイクル率の推移



$$\text{リサイクル率(}\%) = \frac{(\text{直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量} + \text{集団回収量})}{\text{ごみの総処理量} + \text{集団回収量}} \times 100$$

「中間処理後再生利用量」とは、資源ごみ、粗大ごみ等を処理した後、鉄、アルミ等を回収し資源化した量である。

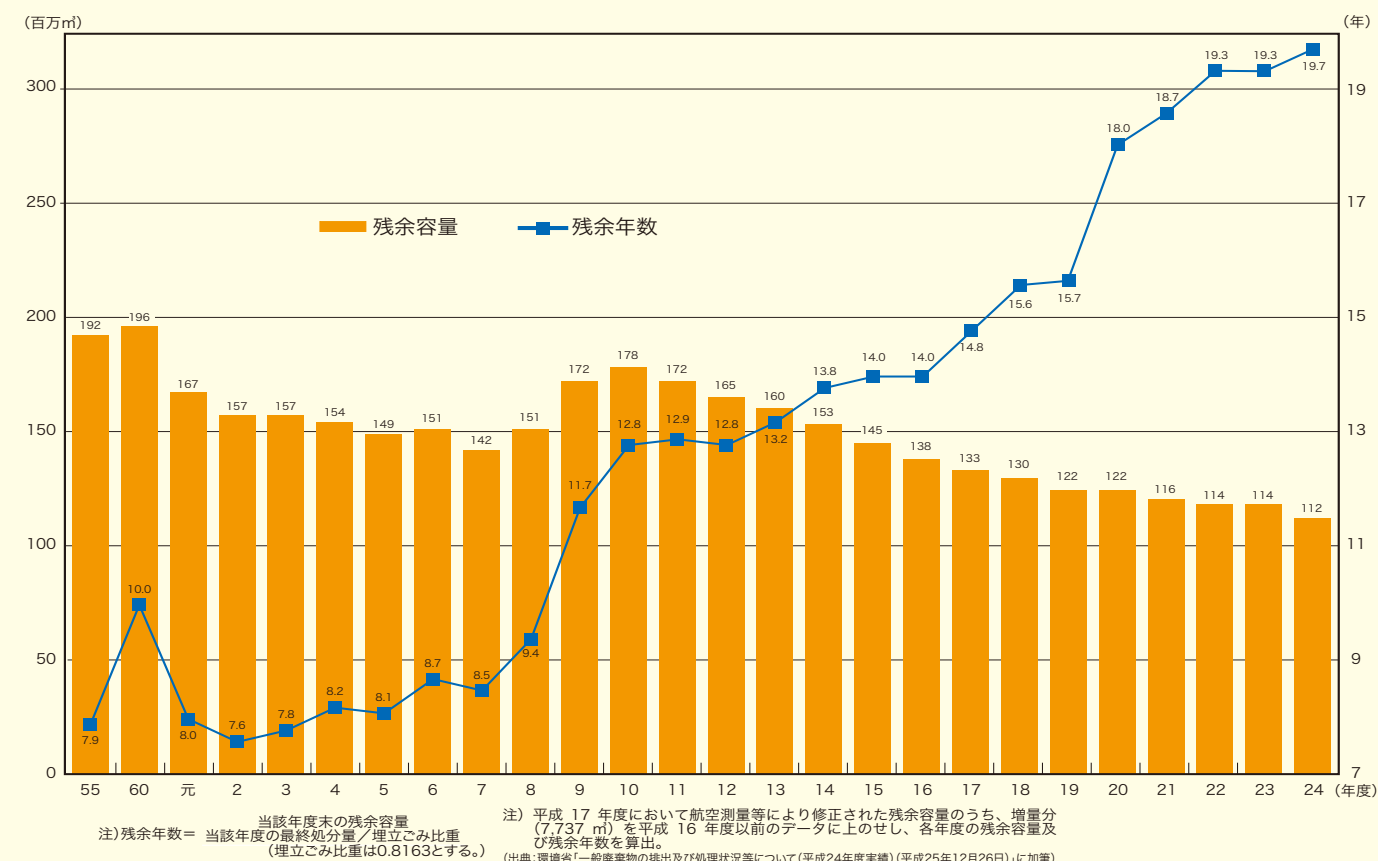
(出典：環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等について(平成24年度実績)(平成25年12月26日)」に加筆)

④最終処分場の状況

平成 24 年度末現在、一般廃棄物最終処分場は 1,754 施設、残余容量は 1 億 1,217 万 m³ であり、残余年数は全国平均で 19.7 年分となっています (図 - 1 - 7)。

なお、最終処分場の設置は地域的な偏りがあるため、残余年数について地域単位でみると長短のばらつきがあると考えられます。

図-1-7 一般廃棄物最終処分場の残余容量と残余年数の推移



●最終埋立処分場・浸出水処理施設

